

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 豊かな実践に高める —

10



平成29年度 第70回山口県学校美術展 推奨作品
 「やったあ、おもいがほれたぞ！」
 宇部市立船木小学校 1年（受賞時）山本 壮真

■特別号 (一財) 山口県教育会の事業

■第70回日本連合教育会研究大会桐生大会 桐生大会に参加して

山口市立湯田中学校 教諭 温品 文浩
 防府市立中関小学校 教諭 田中 邦明

■第9回教育維新・青年教師の集い

参加者の思い 研修教員11名

岩国市立愛宕小学校 教諭 江藤 友亮
 岩国市立灘中学校 教諭 井村 真規

■支部の事業

山口支部 支部長 藤野 正雄
 岩国支部 支部長 福岡 正昭

■現職研修奨励事業 —個人研修—

柳井市立柳井小学校 教諭 角田真由美
 光市立三輪小学校 教諭 木本 恭平

■現職研修奨励事業 —学校研修—

柳井市立柳井南中学校 校長 秋田 和美
 山口市立二島小学校 校長 辻本紳一朗
 下関市立川棚小学校 教諭 三谷 朱美
 萩市立多磨小学校 教諭 佐川 朋華

■地域活性化活動奨励事業

柳井吟詠会屋代教室 事務局長 川本 卓
 岩国市立東中学校 校長 升本 雅巳
 周南市立三丘小学校 教諭 藤原 萌香
 下関市立文洋中学校 校長 磯部 芳規

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
 「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

第70回日本連合教育会研究大会桐生大会

第70回日本連合教育会研究大会桐生大会

期日 8月23日(木)・24日(金)
会場 桐生市市民文化会館 他5会場

全国各地の教育会から約千名の教育関係者が群馬県桐生市に集いました。山口県からは、教育会関係者をはじめ小中学校の現職教員、総勢20名が参加し、日本連合教育会の取組や各教科、道徳、特別活動、特別支援教育、などについて研修しました。理科分科会では、山口市立宮野中学校 田中聡先生が研究実践を発表しました。

開会行事



来賓祝辞
桐生市長
亀山 豊文 様



来賓祝辞
文部科学省初等中等教育局長
高橋 道和 様



大会会長挨拶
日本連合教育会会長
後藤 正幸



来賓祝辞
桐生市教育委員会教育長
柴崎 隆夫 様



大会運営委員長挨拶
桐生市教育会会長
佐野 悦生

アトラクション



曲目「アドベンチャーⅡ」
「夏の思い出」
「八木節」

〈桐生市内小学校金管バンドクラブ各校代表演奏〉



記念講演

「楽しい未来の低炭素社会」

感性、本物の賛沢、人の繋がりがり
群馬大学大学院理工学府 環境創生部門
特任教授 宝田 恭之 氏



【本物の賛沢によるCO₂削減】

- いいものを長く、大切に使う！！
- ↓
- が分かる 喜びをもった人材育成
- ↓
- を育む自然、文化、歴史など
- ↓
- コミュニティー型での協働企画、協働実施

未来創生塾

分科会発表(第4分科会・理科)

「科学的に探究するための 変数に着目した学習過程」

実験を計画し、結果を分析する力の育成をめざして
山口市立宮野中学校 教諭 田中 聡



歴史ある研究大会に参加して



山口市立湯田中学校
教諭 温品 文浩

大会前日に配付された大会冊子は、全国各地で実践された授業が紹介されており、百四十六ページにも及んでいます。手に取るだけで、授業を実践し、まとめ上げられた先生方の思いが、その重さからも伝わってきました。それだけでなく、冊子を拝読することで、七十回目を迎える本大会までの歴史を知ることができました。そのような歴史ある研究大会に参加させていただいたことに、感謝申し上げます。

さて、本大会は桐生市市民文化会館を主会場として、午前には全体会、午後から六会場に分かれての分科会の二部構成でした。

全体会では、開会行事のなかで多くの来賓の方のお話を拝聴させていただきました。特に、記念講演をされた宝田恭之先生のお話は、「健全な執念」、「人生大いに楽しむこと」を主張の核とされていました。そして、限られた資源のなかでの、地域の環境や人との繋がりを生かされた教育実践が、特に魅力的な内容でした。

私が参加した分科会は、算数・数学部会です。その研究協議は、「学び合う活動を通して、数学的な思考力・表現力を高める算数・数学科学習」でした。三件の実践報告の後、次の二つの視点について議論しました。

- (1) 算数・数学科の授業における身につけさせたい資質能力
 - (2) 身につけさせたい資質能力を高めるための学び合い活動の工夫
- 議論では、小・中学校の校種の壁を越えることはもちろん、全国の先生方と意見を交わすことができ、大変有意義で充実した時間になりました。

山口県内でも、数学科教員同士が実践を報告したり、協議したりする機会があります。桐生大会に参加させていただき思うことは、多くの先生方との繋がりが、自分自身を高めるだけでなく、目の前にいる生徒の成長に生かさなければいけないということです。今までも自己研鑽に努めてきましたが、この度学んだ事を今後の授業準備や実践に積極的に取り入れ、思考力・表現力を高める指導を展開していきたいと思えます。



山口県教育会会長
川越 達也



人と人との心のつながりを大切に



防府市立中関小学校
教諭 田中 邦明

「人や社会との関わりの中で思考・判断・表現する力を高め、心豊かに、創造的に生きる子供の育成」を大会主題に「伝統と創造、粋なまち」桐生市において全国各地から総勢約千名の参加の下、第70回日本連合教育会研究大会が開催されました。群馬大学大学院理工学府特任教授の宝田恭之氏による「楽しい未来の低炭素社会」と題した記念講演では、子どもを健全に育てるには感性を豊かにしていくことが必要で、そのためにバーチャルではなくリアルな関係としてのコミュニケーションや、本質的な楽しさを追求する本物の贅沢、使い捨てではなく、よい物を長く大切に使う長寿命テクノロジーの大切さを強調されました。「健全な執念最後まであきらめない気持ち」と「人と人との心のつながり」が生きる力を育むという言葉が印象に残っています。アトラクションでは桐生市小学校金管バンド合同チームによる地元群馬県の「夏の思い出」や「八木節」の素晴らしい演奏に心が癒され、桐生市の皆様のおもてなしの心を感じ取ることができました。

午後からの分科会では第11分科会「道徳」に参加。「心豊かで、未来を切り拓く力を育む道徳教育」を研究協議題として、長崎県教育会と桐生市教育会から小・中学校校舎を三名の提案発表があり、「道徳的価値に迫る多様な意見や考えを引き出すための指導方法の工夫」と「道徳的実践意欲と態度を育てるための指導方法の工夫」について協議しました。子どもたち同士の対話、子どもたちと教師の対話、子どもたちと地域の方々とのふれあいを通して自他を認め合うことや理解を深めることが大切であり、ここでも人と人との心のつながりの重要性を再認識いたしました。

このような研修機会をいただきましたことに心からお礼申し上げますとともに、今大会で学んだことを二学期からの学校現場での実践に生かしてまいります。



第9回教育維新・青年教師の集い

第九回教育維新・青年教師の集い

八月六日(月)・七日(火)の二日間、小学校教員六名、中学校教員五名の参加を得て小中学校社会科指導について研修を行いました。新学習指導要領を踏まえ、新たな指導のあり方を追究しようとする先生方の熱意と、江藤友亮先生(岩国市立愛宕小学校教諭)と井村真規先生(岩国市立灘中学校教諭)の熱心な指導により、充実した宿泊研修になりました。研修を終了した参加者の思いを紹介します。



岩国市立岩国小学校
教諭 坂本 祐介

明治維新百五十周年という記念すべき年に社会科の「教育維新・青年教師の集い」に参加させていただきました。

実践発表・協議では、授業構成や課題などを忌憚なく話し合うことができ、新たな発見や可能性を見出すことができました。また、中学校との学習内容のつながりを知り、小学校の段階でつけるべき力を確認できました。

この二日間、本当に実り多い研修となりました。培ったものを授業改善の糧とし、一つでも多く子どもたちに還元していきたいと思います。この研修に携わられたすべての



下松市立下松小学校
教諭 大草 憲太郎

先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

二日間の研修を通して、社会科の魅力や奥深さを再認識することができた。

一日目の実践発表では、自分の実践の成果や課題が見えただけでなく、中学校の先生方の実践や教材研究の考え方が聞けたことが大変参考になった。

二日目の模擬授業では、どの先生方も資料提示や疑問意識をもたせる指導の工夫がされていた。少数の研修だからこそ、全員が語り合い、様々な視点から授業を検討することができたのだと思う。

児童が本気で社会的現象と向き合いたくなる課題か、それに至るまでの発問や資料提示の工夫ができるかは、社会科学習において大変重要だと感じた。身につけさせたい社会的見方・考え方を意識しながら、具体を捉える問い(どのよう



周南市立富田西小学校
教諭 廣谷 知歩

社会科を楽しみ、社会科に悩みながら日々授業を行う「仲間」に出会えた二日間でした。

学習内容を教えるために、どんな資料を提示し、資料から何を読み取らせるのか。何を考えさせ、どのように発言させるのか。めあての出し方とまとめの書かせ方など、一時間の授業に対して、検討する視点がこんなにもあるものかと思いました。検討を進める中で、中学校の先生方の教材解釈の深さに驚かされました。歴史には、様々な解釈があるということも踏まえ、学習内容について語ることもできる、考えさせられる教師になりたいと思いました。

模擬授業では、実際に授業を行うことで、改善点を見つけることができました。しっかりと考える「理論」だけでなく、やってみて改善する「実践」も大切だと思いました。

今回、このような機会を与えてくださった山口県教育会の皆様や指導してくださった先生方に心よりお礼を申し上げます。

今回の、このよう



山口市立仁保小学校
教諭 西村 さなえ

この度、「教育維新・青年教師の集い」に参加

させていただき、山口県教育会の先生方、指導者の先生方には大変お世話になりました。一日目の実践発表では、小学校や中学の先生のような授業の実際を知ることができ、小学校での学習が中学校での学習につながっていることがわかりました。

二日目の研修では、指導案の作成と模擬授業を行いました。同じ資料を扱っても先生によって授業での活用の仕方が異なり、様々な授業の組み立て方があることを改めて感じました。また、模擬授業後の研究協議では、疑問に思ったことを聞いたり、アドバイスをもらったりと、大変勉強になりました。



この二日間の研修で学んだことを、これからの授業に生かし、子どもたちが「わかった!」「伝えたい!」と思えるような授業づくりをしていきたいと思えます。貴重な経験をさせていただきありがとうございます。



宇部市立西宇部小学校
教諭 浅村 舞子

日々の社会科の授業実践の中で、子どもの好奇心を引き出す学習課題の設定、子どもの学びを結びつける授業展開等に課題を感じていたこともあり、この研修会に参加し

子どもに聞いてみると、小学校の時に「もやつたと言っ」と発言され、小学校の学習の大切さを改めて実感し、自分も中学校につ



たいと思いました。実践事例をもとにした協議では、先生方の日々の取組について詳しく聞くことができ、とても勉強になりました。また、小中の学習内容の繋がりについては、小中連携の大切さも改めて感じました。そして、指導案作成・模擬授業では、先生方の皆さんの工夫が隠された授業展開や、教材研究の深さに刺激を受けました。学びの多い二日間となり、この研修で学んだことを今後の授業実践に生かしていきたいと思



「社会科は、奥深く面白いものだ。早く子どもたちと一緒に授業がしたい！」と心から思える二日間の研修でした。

下関市立文関小学校
教諭 原田 勝

このような機会を与えてくださった山口県教育会の先生方、大変お世話になりました。



また、小学校での社会科学習の様子も知ることができ、今後は中学校へ入学してきた生徒の社会認識を広げるための工夫や小中のカリキュ



一日目の実践発表では、他の小学校の先生方や中学校の先生方の実践を聞き、協議しました。中学校の先生が、「授業をしていると、よく知っていて驚くことがある。子どもに聞いてみ

「社会科は、奥深く面白いものだ。早く子どもたちと一緒に授業がしたい！」と心から思える二日間の研修でした。

下関市立文関小学校
教諭 原田 勝

このような機会を与えてくださった山口県教育会の先生方、指導者の先生方、研修教員の先生方に心から感謝するとともに、今回の研修で学んだ社会科の魅力を子どもたちにも伝えていきたいと思

今回の研修で学び感じたことを、積極的に今後の授



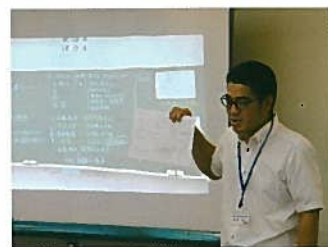
二日目の模擬授業は、「自分も二学期にこんな授業をしてみたい」と感じる授業ばかりでした。授業後には、社会科で一番大切な「問いの設定」について協議をしたり、同じ単元でも教師の教材解釈の深さによって授業に広がりが出てくることについて学んだりすることができました。

二日目の模擬授業は、「自分も二学期にこんな授業をしてみたい」と感じる授業ばかりでした。授業後には、社会科で一番大切な「問いの設定」について協議をしたり、同じ単元でも教師の教材解釈の深さによって授業に広がりが出てくることについて学んだりすることができました。

下関市立文関小学校
教諭 原田 勝

このような貴重な機会を提供して下さった山口県教育会のみなさまや指導助言の先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の研修で学び感じたことを、積極的に今後の授



二日目の模擬授業は、「自分も二学期にこんな授業をしてみたい」と感じる授業ばかりでした。授業後には、社会科で一番大切な「問いの設定」について協議をしたり、同じ単元でも教師の教材解釈の深さによって授業に広がりが出てくることについて学んだりすることができました。

二日目の模擬授業は、「自分も二学期にこんな授業をしてみたい」と感じる授業ばかりでした。授業後には、社会科で一番大切な「問いの設定」について協議をしたり、同じ単元でも教師の教材解釈の深さによって授業に広がりが出てくることについて学んだりすることができました。

下関市立文関小学校
教諭 原田 勝

このような貴重な機会を提供して下さった山口県教育会のみなさまや指導助言の先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の研修で学び感じたことを、積極的に今後の授

二日目の模擬授業は、「自分も二学期にこんな授業をしてみたい」と感じる授業ばかりでした。授業後には、社会科で一番大切な「問いの設定」について協議をしたり、同じ単元でも教師の教材解釈の深さによって授業に広がりが出てくることについて学んだりすることができました。

二日目の模擬授業は、「自分も二学期にこんな授業をしてみたい」と感じる授業ばかりでした。授業後には、社会科で一番大切な「問いの設定」について協議をしたり、同じ単元でも教師の教材解釈の深さによって授業に広がりが出てくることについて学んだりすることができました。

下関市立文関小学校
教諭 原田 勝

このような貴重な機会を提供して下さった山口県教育会のみなさまや指導助言の先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

岩国市立由宇中学校
教諭 梶房 出

「とても頭を使い疲れた！」それとともに、「社会科教育に関して深く考え没頭することができた!!」そんな二日間でした。日頃は、自分一人で授業を考えることが多いため、授業改善が思ったように進まず悩むこともありましたが、この度の研修会で様々な先生方から意見を頂戴し、視野を広げることができました。事例発表や指導案検討では、「教科書を教える」ではなく「教科書で教える」ことや、社会的事象の解釈の大切さを再認識しました。

柳井市立大島中学校
教諭 庄本 恵子

二日間の研修を通して、改めて社会科の授業のおもしろさと難しさに触れることができました。一日目の事例発表では、小学校と中学校の学びのつながりについて、有意義な協議をすることができました。また、小学校の先生方の授業は社会科に親しみを持たせる工夫がたくさん盛り込まれており、大変刺激を受けました。

周防大島町立久賀中学校
教諭 塩田 匠

新規採用一年目、日々の授業準備に追われながら一学期を終えた。その中で、授業が不十分であると感じたり、思っていたよりもうまくいかなかったと感じたりすることがあり、日々の授業づくりを改善するヒントが得られればと思

なくことができるような授業づくりをしていきたいと思

ラム連携を重視した授業の展開など、今後の自分の課題が見えてきました。この二日間で学んだことを今後の実践に生かしていきたいと思

業に取り入れ、子どもたちに還元していくとともに、これからよりよい授業作りができるよう励んでいきたいと思

周南市立富田中学校

教諭 竹中 悠起



て、基礎的な力をより強固にして、授業力を一段レベルアップしたいと思ひ参加させていただきました。

一日目の実践事例発表では、授業の展開に工夫をこらした実践や、郷土の歴史や地域の歴史遺産を活用した実践を聞くことができとても刺激を受けました。

二日目の模擬授業では、教員によって様々な教材観や指導観があり、一つの単元でも幾通りもの授業展開があることを改めて実感しました。また、主発問も言葉の過不足で生徒に与える印象が大きく変化することを確認でき、より一層教材研究の楽しさを感じる事ができました。

この二日間、じっくりと社会科と向き合い、社会科を通じて素敵な先生方と意見交換をし、二学期に向けてのモチベーションを高めることができました。研修を通して得ることができた気づき、学び、発見、反省点を授業を通して、生徒へしっかりと還元していこうと思ひます。本当にありがとうございました。



宇部市立黒石中学校

教諭 田村 大地

私自身が、「主体的、対話的で深い学びを体験

できた」と思える二日間となりました。一日目の実践発表では、生徒が主体的



取り組める「課題解決型」の授業の有用性を再認識できました。事象の扱いにとどまるのではなく、生徒の深い学びを実現するために、発問の設定に留意することを学ぶことができました。また、そのために、私自身が自己研鑽を積み重ね、研究授業を定期的に行う必要性を強く感じました。

二日目の模擬授業では、ICTの活用や、生徒の意見を取り上げ価値付けする授業展開などを学ぶことができました。

生徒の実態に合わせた課題設定や、全ての生徒が活躍できる場面を設けるなど、取り入れるべきことが盛りだくさんの内容でした。

今後は、本研修で学んだことを生かし、教材の解釈などの教材研究を積み重ね、生徒の「分かる、できる、楽しい」を引き出す授業を行うとともに、生徒の主体性を生かした「課題解決型」の授業を展開していきます。貴重な研修の機会を本当にありがとうございました。



岩国市立愛宕小学校

教諭 江藤 友亮



社会科を中心とした今年度の本研修に、指導助言者として参加させていただきました。まさしく教育維新の名にふさわしい、熱い想いあふれる先生方と研修できたことは、私にとつて大きな財産となりました。

一日目は、小中合同での実践発表と協議を行いました。小中の異校種の実践だからこそ、多くの刺激があったと思います。改めて小中連携の大切さも感じられたのではないのでしょうか。

二日目は模擬授業が行われました。先生方の情熱と笑顔あふれる授業に対して、協議を含めた三十分はあっという間でした。学習課題、導入の工夫、効果的な資料提示、まとめの書かせ方と、それぞれの授業へのこだわりと悩みが共有できた充実した時間でした。

これからますます教師として成長していく先生方には今回のような仲間との出会いが欠かせません。子どもたちの目が輝き知的に満足を得る授業づくりのため、真剣に授業について語り合える仲間を大切にしたいと思ひます。また、今求められる学力と児童の実態、それらをつなぐ学習材について、今後もさらに教材研究に励んでいただきたいと思います。私も先生方に負けないように研鑽に努める所存です。

最後に、このような素晴らしい学びの機会を与えてくださった山口県教育会の皆様へ厚くお礼を申し上げます。



岩国市立灘中学校

教諭 井村 真規



ベテランの先生方の大量退職が始まり、若手の先生方の採用が増え続ける中、これからの学校教育の担い手を、学校現場でどうやって育てていくかが、今、喫緊の課題となっています。特に教科教育については、様々な理由から、学校現場で、じっくりと腰を据えて、研修に取り組むことができないという現実もあります。社会科教員として採用された以上、私たちは、その指導力を生涯にわたって磨き続けていかなければなりません。そのような中で行われた「第九回教育維新・青年教師の集い」は、参加された若手の先生方にとって、大変貴重な研修の機会になったのではないかと思います。

私は、今から五年前に、研修教員としてこの「青年教師の集い」に参加しました。その時、模擬授業や実践事例の検討を通して、小・中の同世代の先生方と、授業の在り方や教材解釈などについて、熱く協議したことを、今でもよく覚えています。今回は、指導助言者という立場での参加でしたが、若手の先生方の、社会科に真剣に向き合おうとする姿勢に触れることができ、私自身、大変よい刺激をいただくことができました。

今回、このような機会を与えてくださった山口県教育会の皆様には、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



指導助言者

第十七回やまぐち教育の日の開催に向けて
第四十六回教育県民大会山口大会



山口支部
支部長 藤野 正昭

維新百五十年の今年、NHKの大河ドラマでは「西郷どん」が放映されています。ドラマの中で、ようやく維新胎動の地として長州（＝山口）に焦点が当たってきました。そのような折、明治維新策源地の地、山口市において標記大会を開催し、子どもたちの未来について語り合う運びとなりましたことに、偶然とはいえ、感慨深さを感じています。

山口大会を引き受けるにあたり、昨年度は「未来を切り拓く子ども達をはぐくむ」のテーマのもと、防府地区教育振興フォーラムとして「第十四回山口教育のつどい大会」を開催しました。本大会では、青少年が将来に明るいビジョンを描き自分の進むべき道を切り拓いていく力を育てる場と機会を「地域との連携」の中に求めてきました。したがって、「地域との連携」を基盤として、主に「ふれあい」「認め合い」「支え合い」「つながる」などの視点から活動の見直しに焦点を当て、学校や地域の実践交換を行



山口南総合支援学校によるアドラクション

いました。実践交換を行った後、最後には山口県教育庁義務教育課兼重彰洋教育調整監様に「山口型地域連携教育の推進にける想いと期待」という演題で講話をいただき、参加者一同地域連携教育の推進に対する確かな考えを持つことができました。



パネル発表

本年五月には、山口大会開催のための実行委員会を立ち上げ、大会主題の解明に結びつける方途や運営等について総合的な検討並びに準備に取りかかり、その気運を着々と高めてまいりました。

山口大会では大会主題を「明日を拓く」、副主題を「地域と学校の新たな関係を築く」として、地域と学校が「知恵と経験・情報」等を提供しあつて活動する中で、共に学び変容し成長する「共磨きの連携」の構築をめざしたいと考えています。

教育関係者、教育委員会のみならずまをはじめ、多くの県民のみなさまのご来場と実り多き大会となりますことを期待してご案内申し上げます。

支部活動の充実に向けて



岩国支部
支部長 福岡 正昭

岩国支部では、主な活動として県内外の歴史探訪を進めてきている。これまで、①萩市の史跡巡り②毛利公の旧跡を訪ねる（三次市）③金子みすゞを訪ねる旅（長門市）④三原市周辺の旧跡を訪ねる旅⑤金子みすゞ跡地を訪ねる（下関市）等のツアーを行ってきた。



岩国城内にて

昨年度は、新会員や現職教員及びOBとの交流の場を通して教育会への理解と親睦を深めたいと考え、市内のふるさと歴史探訪を実施した。岩国市徴古館学芸員 正中克磨 先生による

岩国城周辺の史跡巡り、及び、岩国山野草を楽しむ会会長 熊田 和登先生による野草を中心にした自然観察会である。十月十四日(出)の午前中、支部役員をはじめ、市内の現職教員や歴史・野草等に関心がある会員等二十五名の参加者を得て実施することができた。

また昨年度、岩国支部では支部会員対象に「みすゞ読本」を刊行する

とともに、現職教員や子どもたちにもひろの学習を通して金子みすゞに興味や関心をもってもらうために、これを岩国市内の小学校に配布した。とりわけ、この「みすゞ読本」を、道徳の授業で役立てていただくことを願い、本冊子には、指導案例や学習展開例、添付絵等を盛り込み、小学校各学年で活用しやすいように配慮した。



また、昨年度、周南市において小学校道徳全国大会が開催された。この折にも、各都道府県の会長並びに岩国市内各小中学校及び新採用の教員全員に本冊子を配布した。

今年度も「改訂版 みすゞの祈り」を作成し、支部研修会資料として活用するとともに、市内の小中学校に配布する予定である。

併せて、本年度も十月には、「金子みすゞを訪ねる旅（長門市）」のバスツアーを予定している。

こうした活動を継続して、教育会活動への理解と関心を高めていきたいと考えている。

支援が必要な児童への指導方法の探求



柳井市立柳井小学校
教諭 角田 真由美

通級指導教室の担当となり、3年目を迎えた。本教室には、現在83名の児童（加えて24名の幼児）が通っている。児童の実態はさまざまで、どのように指導すれば効果的であるのか、日々同僚と相談しながら実践を重ねている。

高学年の児童Aさん。週2回の朝の委員会活動に参加していないことが分かった。何回も「今日、何の日だったかな？」と声をかけても、本児から「委員会活動だ」という発言は出なかった。

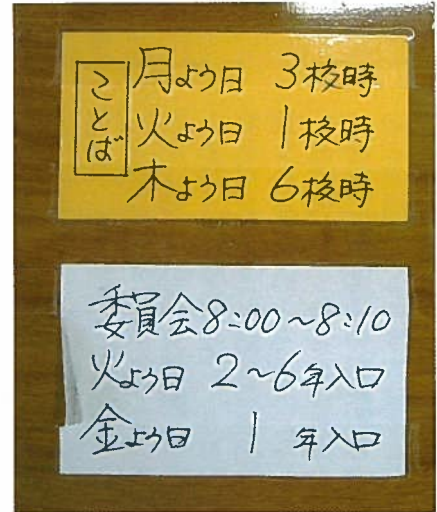
ある日、Aさんが「忘れるから、通級指導教室に行く日と時刻を机に貼ってほしい」と言ってきた。机にメモを貼ったが、この程度のことで効果が出るのかと半信半疑であった。しかし、予想に反し、Aさんは忘れずに来室するようになった。

それならば…。本児に許可を得て、委員会活動を行う曜日、時刻、場所を机に貼った。すると、自分から活動に参加するようになった。本人が納得の上、メモを貼るから効果が出るのだろう。本

人が嫌がっていたら、たぶん効果はでない。児童が意欲的になるように、まずは自己肯定感を高め、教師との信頼関係を構築することが大切である。

また、タブレット端末で即時に画像を見せることで、児童の意思を確認したり会話が膨らんだりすることも実感している。ある日、年長児Bさんが歌を歌ってくれた。歌詞を覚えておらず、発音も不明瞭で、何の歌か分からない。調べると、映画ドラえものの主題歌と分かった。曲を流すと、元気よく歌ってくれた。

山口県教育会から助成を受け、指導力を高めるために研修会に参加したり、教具や書籍を購入したりすることができている。今後も研鑽を重ね、児童が笑顔で学校生活を送ることができようように支援していきたい。



運動好きな児童の育成をめざして



光市立三輪小学校
教諭 木本 恭平

本校の児童には、運動能力の二極化という課題がある。休み時間には、運動場に飛び出し、汗だくになって遊んでいる児童がいる反面、遊具の上や芝草に座って友達と談笑をしている児童もおり、この休み時間の状況が、運動能力の二極化に少なからず関係していると考え。そこで、小規模校という利点を活かし、全校運動の取組を通して、運動の楽しさや喜びを味わわせ、主体的に体力向上を目指す児童を育てていきたいと考えた。

取組の一つとして、昨年の秋から「朝のかけ足運動」に取り組んでいる。体力テストの結果から持久力に課題が見られたためである。朝学までの時間を利用し、軽快な曲に合わせ運動場を走るというものである。当初は、全校児童が意欲的に外に出て走っていたのだが、徐々に取組に差が見られるようになってきた。この状況を改善したいと思い、本年度は、かけ足カードの表記を運動場の周数から走行距離に変えた。光駅から上りの各駅間の距離に色をぬり、

具体的な数値が示されたことで意欲へとつながった。また、目標を設定し、ふり返ることで達成感が味わえるようになった。

二つ目の取組として、体育委員会主催による全校児童参加のミニスポーツ大会である。集団遊びの楽しさを体感したことで週1回の学級遊びが週2回になった学級や、異年齢で遊ぶ児童の姿も多くなり、仲間づくりへもよい影響が出始めている。

これら二つの取組は、今後も継続していき、本年度は更に投力や跳躍力の向上につながる運動遊びも取り入れ、基礎体力の向上に努めていきたいと思っているところである。

山口県教育会から助成をいただくことで、体力向上や運動遊びに関する書籍を多く購入することができた。また、県外の研修会への参加も可能となり、多くの実践にふれることができている。今後も、体力向上につながる楽しい運動遊びを研修、実践し、運動好きな児童の育成に努めていきたい。



学力向上をめざして



柳井市立柳井南中学校
校長 秋田 和美

本校は、全校生徒45名、教職員11名の小規模校である。生徒たちは、明るくまじめで、学習に対して真剣に取り組む姿勢がある。個々の生徒の可能性を伸ばすため、小規模校の利点を生かした教育活動を行っている。その一つが、徹底した個別指導である。

学力の支援が必要な生徒だけではなく、それぞれの生徒の進路希望に応じて、時間の設定も柔軟に、各教科の補習授業を行うとともに、一学期から夏休みにかけて、ほぼ毎日、個別の学習支援が行われる。また、教師からの働きかけだけではなく、生徒たちも個別の学力向上のために主体的に活動をしている。その一端が、文化広報委員会による自主学習ノートの表彰である。個別学習と個別指導が本校の学力向上の要の一つとなっているといえる。

本年度、若手の教員が増加した。そのような状況の中で、若手教員の育成も目指し、校内研修主題を「学ぶことの意味を見いだすことのできる授

業の工夫」とした。生徒の学力をつける基本は、やはり授業である。学力向上を目指して本年度も、研究授業、協議を計画的に行っている。「おいでませ授業」というネーミングで、教員が気軽にお互いの授業見学を行い、よさや改善点について協議を行っている。その協議のために、山口県教育会の助成等により購入したホワイトボードなどを活用し、お互いの関わり合いの中で、生徒が主体的に学習できる授業づくりを目指し、各教科が実践研究を深めている。また、今後、新学習指導要領の実施に向けた研修のために、外部機関から指導者を招聘し、授業改善のポイント等について研修を行う予定である。

ICTの活用は、教育活動の充実とともに、校務の負担軽減にも繋がる。今後もアイデアを出し合いながら、ICTの活用研究を一層進めたい。

今後も小規模校の利点を生かし、個々の生徒にきめ細やかな指導を行い、教職員間の連携を図りながら、研修を深めていきたいと考えている。



主体的に地域と関わる子を育てる



山口市立二島小学校
校長 辻本 紳一郎

子どもたちがより主体的に地域と関わるために、山口県教育会の助成を役立たせていただき、学校の姿を垣間見る場として「わくわく掲示板」を学校前の店舗内に開設し、子どもの作品や活動の様子などを掲示することにした。あわせて、「二島っ子ポスト」を設置し、地域の方々子どもたちとの交流も始まった。掲示板には、子どもたちからのお願いも掲示させていただいた。修学旅行に向けての千羽鶴作成には、多くの方が協力してくださり、子どもたちは、主体的に人と関わる喜びを大いに味わったようだ。

そうした中、学校裏の池のリニューアルを提案した6年生たちが、「風致池バージョンアップ・プロジェクト」を開始した。雑草が生え、木が生い茂り、がれきが多く入ったままの池周辺を公園のようにしたい、という思いをもって始めた活動である。自分たちができることを、と環境整備を始めたものの、できる活動が限られていたため、地域の方々に協力をお願いすることにし、「わくわく

掲示板」で呼びかけた。すると、賛同してくださった地域の方々が集まり、大掛かりな池周辺の整備をしてくださることになった。

そのことに感動した子どもたちは、その後も活動を継続し、以前は「非常用貯水池」として校舎裏でひっそりとしていた風致池周辺は、みんなに親しまれる素敵な公園となった。

6月半ばには、関係者を招いて完成式典を開催した。6年生たちにとって小学校時代のよい思い出になるとともに、自分たちだけでできないことが社会とつながることによって可能になることも学べたことだろう。この活動が下級生たちに受け継がれていくことを期待するものである。

6年生たちは今、地域の広大な干潟に棲む希少生物の調査活動を始めている。地域に関わり、その魅力を発見することは、地域を新たな目で見つめ、関心を深める大きなきっかけになると考える。我々教師は、地域にしっかりと目を向け、子どもたちと地域との有効な出会わせ方や、そこで何をどんな形で学ばせるかをしっかりと考えることが大切であろう。今後も教職員皆で研修を積んでいきたい。



全校体制で取り組む算数科の授業づくり



下関市立川棚小学校
教諭 三谷 朱美

本校では、昨年度までの児童の実態から、今年度は、「数学的な見方・考え方をはたらかせた知識・技能の確実な習得」を目指して研究を推進している。「全校体制」で取り組むことを大切にしながら、次のように研修を進めている。

- 校内研修を、「全体研修」と「チーム研修」（「学力向上プロジェクト」と「授業づくりプロジェクト」）の2本立てで行う。
- 毎週月曜日の放課後、若手教員を中心とした勉強会「のびのび会」を実施する。

全体研修では、全校で一貫した指導を行うため、学習規律や授業づくりの重点目標等を全体で確認した。また、「家庭学習の手引き」の見直しを行い、全家庭に配布した。第1回全校授業及び協議会では、学習形態の工夫や言語活動の充実について、授業の改善点を見出すことができた。

チーム研修では、「学力向上プロジェクト」で、児童の学力分析をもとに、本校児童の課題や伸び

たい力を重点的に指導するため、学習プリントの作成を行った。9月の朝学や昼学の時間に全校で実施する予定となっている。

「授業づくりプロジェクト」では、全学年の数学的な表現と、児童に使わせたい説明のことはもとに整理し、冊子にまとめた。2学期からの算数の授業づくりの際に活用していく。

勉強会「のびのび会」は、毎回テーマを決めて学んでいる。学級づくりや授業づくりを中心に、教師として成長していく上での様々な内容をニーズに合わせて学ぶことができています。

本校は、若手教員が多数であるため、全校体制で取り組むことや研修の機会を多くもつことが重要である。現職研修奨励事業の助成を、教材やプリントづくり、講師の招聘など、研修の活性化のために有効に活用させていただいている。

すべての児童にとって、算数科が「わかる」「できる」「楽しい」ものとなるよう、今後も全校体制で授業づくりの研修に励んでいきたい。



よりよい校内研修を進めていくために



萩市立多磨小学校
教諭 佐川 朋華

本校では、今年度の研究主題を「自分の思いや考えを進んで表現する子ども～算数科の「説明力」を高める指導を通して～」と設定し、教職員全員で研修を進めている。

本校では、特に数学的な言葉を用いて事実や方法、理由を文章で表現することを苦手としている児童が多い。そこで、説明力を「目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用して説明する力」、「根拠をもとに筋道を立てて説明する力」とし、研究を進めている。

研修では、自分の思いや考えを表現する力をつけるために、火曜日の朝に各学年で「フリートーク」を実践したり、説明力を高めるために、「説明の図式化」や「具体物→図式化」の指導及び説明の型（どのような接続詞を使えばよいか）の指導をしたりしている。また、教員は年間一人1回、研究授業を行い、授業の後は全教職員で振り返りを行い、研修を進めている。

研究授業では、年に3回講師をお招きし、指導

助言をいただく予定である。よりよい校内研修を進めていくために、山口県教育会から現職研修奨励事業の助成をいただくことにより、今年度は、山口大学教育学部附属教育実践総合センター客員教授の浦田敏明先生を指導者としてお招きすることが可能となった。

早速、6月20日の1年生の研究授業でも、浦田先生に来校していただき、授業参観、研究協議を行った。授業参観後は、2つのグループに分かれ研究協議を行った。指導を受ける中で、研究を進めるにあたっての新しい知識を得ることができ、さらに充実した校内研修を進めることができています。

これからの校内研修も、浦田先生にたくさん指導をしていただきながら研修を進め、子どもたちの「説明力」を高め、自分の意見や考えを進んで表現できる子どもを育てていきたいと考えている。



吟で生き生き 仲間づくり 村づくり



柳井吟詠会屋代教室
事務局長 川本 卓

かつては20名近くの詩吟愛好家が在籍していましたが、介護や高齢による退会、趣味の多様化による会員の減少により、現在10名(大島教室、屋代教室の合計)で活動しています。

活動にあたり、下記の目標を掲げています。

- ① 口を開きお腹から詠って健康づくり
- ② 詩吟愛好家を増やして仲間づくり
- ③ 地域行事に参加して地域づくり
- ④ 小中学校、社会福祉施設との交流

ここ数年、地方創生、コミュニティスクールといった言葉が聞かれますが、私たちの活動も上記①②に加えて③④の地域活性化活動が増えてきています。そこで、活動の一部を紹介します。

【小学校との交流】

三蒲小学校と合同で敬老会に参加し、わらべ吟詠(童歌を児童が合唱し、途中の詩吟を会員が吟じる)を歌っています。小学生と大人のコラボが、地域の方に好評です。

その後、センターで詩吟の練習をしていると外を通りかかった小学生と手を振り合う仲となり、笑顔と元気をいただいています。

【社会福祉施設との交流】

特別養護老人ホーム「ほのぼの苑」と年4回の交流を行っています。一緒にわらべ吟詠を歌ったり、会員の詩吟を聴いていただいています。

中には、自らマイクを片手に童歌を歌いはじめたり、楽しそうに詩吟を口ずさむ方もいて、互いに楽しみな交流となっています。

また、今年度は新たに児童クラブで「夏休み詩吟教室」を行ったり、他地区の敬老会にも参加の予定です。

会員が少ないため自己資金は乏しく、山口県教育会の助成は、地域活動のための研修参加や活動に役立っています。

今後も、詩吟を通して、地域づくり・仲間づくり等に行えることから取り組みたいと思います。



小中一貫校の開校に向けて、地域とともに歩む



岩国市立東中学校
校長 升本 雅巳

本校は、平成32年度に、東小学校と校舎一体型、小瀬小学校及び装港小学校とは分離型の小中一貫校として開校する。現在、キャリア教育を柱とした小中一貫教育の構築をめざして準備を進めているところであるが、その教育の基盤として、「ふるさと愛ネット」(東中学校区協育ネット協議会)を位置づけている。学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てることにより、地域と学校の活性化を図り、小中一貫教育目標である「ふるさとを愛し、ふるさとの人々からも愛される子どもたちの育成」の達成に迫ろうというものである。「ふるさと愛ネット」では、「学びの部会」「こころの部会」「からだの部会」「つながりの部会」の4部会に分かれて、具体的なプロジェクトを進めている。これまで山口県教育会からのご支援をいただき、次のような実践を行ってきた。

- ① 地域一斉あいさつ運動の実施(毎月1回)
- ② 地域清掃ボランティアへの参加(年間3回)

③ 地域の駅伝大会や祭り等への参加とボランティア活動

④ キャリア教育講演会の実施(年間2回)

児童生徒は、地域との関わりが深まるにつれて、平素の登下校においても気軽にあいさつを交わすようになってきた。以前にも増して地域行事等への興味・関心が高まっており、実際に地域に貢献することで、これまで以上に達成感、自己有用感、自尊感情等をもてるようになってきた。一方で、地域の方々には、学校の支援という形で児童生徒の教育に関わったり、地域行事等で児童生徒とふれ合ったりしていただく中で、「地域が育てる」という意識の高まりとともに、「地域の学校」という思いを強くいただいているように感じる。

小中一貫教育目標のもとで、地域と共に以上のような取組を重ねる中で、小・中学校と地域間の垣根が取り払われ、そのことが、小中一貫教育の構築を推し進める大きな力になっていることも実感している。今後は、学校・家庭・地域が協働して「地域ぐるみで子どもを育てる」という風土を一層醸成するとともに、それを生かした特色ある小中一貫教育を構築していきたい。



えびす祭り(11月2年生による岩国ばやし)

地域とつながる「ふるさと学習」



周南市立三丘小学校
教諭 藤原 萌香

三丘小学校の校区である安田地区に、江戸時代から伝えられ、現在まで続いている「安田の糸あやつり人形芝居」があります。これは、山口県無形民俗文化財に指定されています。

三丘小学校では、平成7年に三丘三和会の方々と共に、「三丘小人形浄瑠璃の会」を結成しました。現在も、三丘三和会の皆さんのご指導のもと、5年生が「総合的な学習の時間」の学習の一環として、人形浄瑠璃体験活動に取り組んでいます。

5年生は、年数回の公演に向けて、毎週火曜日の3・4時間目に練習を行っています。語り、三味線、人形遣いの3つのパートに分かれ、それぞれレベルアップを目指しています。児童は、疑問に思ったことや



上手になるための工夫などを、三和会の方に積極的に質問したり、お話の内容について自分から調べたり、高い関心・意欲をもって取り組んでいます。

山口県教育会からの助成を舞台や道具、衣装等の維持管理費として活用させていただきながら、7月末には、市内の小学校で今年初めての公演を行い、練習の成果を発表することができました。今後も、地元や市外の様々な場所で発表の機会をいただいています。この数年は、地域の枠を越えて、公演の依頼も増えてきました。様々な場で発表する経験を積むことで、子どもたちにとっての自信になり、自分達の学校やふるさとを誇りに思う気持ちが育ってきているように感じます。

人形浄瑠璃の取組を通して、地元の伝統文化のすばらしさを知り、一人ひとりが、「自分たちが大切に受け継いでいくんだ」という思いを強く持つようになってきました。また、地域の方と関わる機会が多くなり、練習以外の様々な場面でも、積極的にあいさつをしたり、交流したりするなど、地域の方々とつながりをさらに深めています。

三丘小学校は、地域に大きく支えられている学校です。地域の方々の温かい支えに感謝し、人形浄瑠璃の取組を通して、ふるさとを愛する子どもを育て、学校が地域を元気にする存在でありたいと思います。

平家太鼓・平家踊り ～伝統文化の継承～



下関市立文洋中学校
校長 磯部 芳規

食後のひととき。「ドン・トン・チャン」。今日も馬関祭り。文洋中学校の昼は音からはじまる。心躍る愉快的な気持ちになる。

本校は、下関市の中心部、下関漁港、関釜フェリーの発着場を間近にひかえた県内有数の商業地を校区としている。校舎は響灘を望む高台に位置する。古の香りと国際色のある「下関らしい」学校である。

この立地条件を生かし、文洋中学校では、17年前から総合的な学習の時間に平家太鼓やハングル語講座等を地域の協力を得て開設している。その流れは、今や「コミュニティ・スクールとして地域協育ネットを活用した伝統文化の継承」「文洋校区の学びの仕組み」へと深化している。平家太鼓においては、生徒も教員も放課後、地域に出て学ぶこともある。今年から町づくり協議会のご支援により三味線が揃い、平家踊りに唄も加わった。

そして8月には山口県中学校文化連盟から長崎県



で開催された第18回全国中学校総合文化祭に出演する機会を頂いた。約15分の出演時間中で、生徒は会場を魅了した。

出演後、司会者から感想を求められた女子生徒は、「少しでも自分の育った下関の伝統を守っていくとともに、自分からも文化を発信していきたい」と答えた。彼らは町の「過去・現在・未来」を魅せようとしていたのだと感じた。もう立派な地域人である。

本校では、地域の団体によるいろいろな分野の教育活動が展開される。今回、山口県教育会地域活性化活動奨励事業により、本校の教育活動に支援を頂いたことで生徒の想いを形にする地域の学校としての活動が展開でき、さらに発信する場面に臨むことができた。心よりお礼申し上げたい。

そこで、お礼の気持ちを込めて「おいでませ・下関」